

SJ-Netで
今回観察した際の
動画を公開中です。

ホンダ SJ 検索



ある日の午後、気になる実際の交通状況を観察してみました

高齢歩行者は横断前に左右確認を行っているか？



- 観察場所／神奈川県藤沢市南藤沢 JR藤沢駅南口付近
- 観察日／9月25日(土曜日)
- 天候／晴れ
- 観察時間／15:20～16:20
- 観察者／5名

Q1 横断時に左右の安全確認を行ってから横断した高齢歩行者は何%いたでしょうか？



杖をつきうつむき加減の高齢者

Q3 杖をつき、うつむき加減で横断歩道に接近する高齢者を目撃!! 事故を防ぐには、高齢者とドライバーはどうすればよいでしょうか？

Q2 高齢者以外の年齢層では、何%の歩行者が横断前に左右の安全確認を行ったでしょうか？



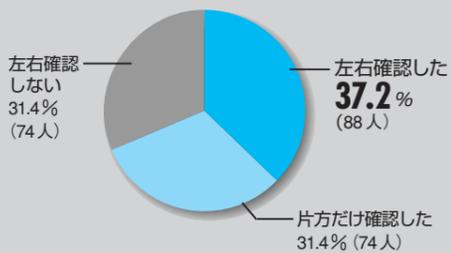
横断前に立ち止まって左右の安全を確認する高齢者

↓ 解答・解説

実際の観察から

Q1の解答：37.2%

●高齢歩行者の左右確認状況 (236人中)



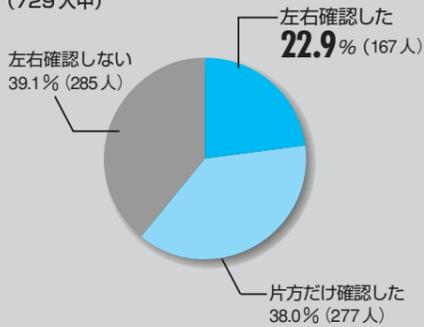
●全歩行者の左右確認状況 (965人中)

	左右確認した	片方だけ確認した	左右確認しない	小計
小学生以下	8 (11.6%)	15 (21.7%)	46 (66.7%)	69
中学生・高校生	18 (21.7%)	29 (34.9%)	36 (43.4%)	83
成人	141 (24.4%)	233 (40.4%)	203 (35.2%)	577
高齢者	88 (37.2%)	74 (31.4%)	74 (31.4%)	236
小計	255	351	359	965

※小学生以下(12歳以下)、中学生・高校生(13～18歳)、成人(19～64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による

Q2の解答：22.9%

●高齢者以外の年齢層歩行者の左右確認状況 (729人中)



- 他の年齢層に比べ、高齢歩行者のほうが顔を大きく動かして左右の安全を確認する例が多かった。しかし、左右確認が不十分な高齢歩行者が6割以上もいた。
- 背中が曲がり視線がうつむき加減で、左右確認をせず横断する高齢歩行者も見られた。
- 年齢層に関わらず、多くの歩行者がかたまっている際には、後方の人はほとんどが左右確認を行わず、前の人の動きに合わせて横断を開始していた。また、友人との会話に夢中で左右確認が不十分な例もあった。

- 小学生以下の親子連れの場合、子どもは左右を確認せず、親だけ確認する例がほとんどだった。手をつないでいない親子連れも多かった。
- 携帯電話を注視して左右確認がおろそかになりがちなのが、中・高生や若者に目立った。
- クルマは、歩行者が多い地点では、徐行したり一時停止を行っていたが、人通りの少ない横断歩道付近では、スピードを緩めないケースもあった。
- 自転車は、スピードを緩めずに横断歩道に接近する例も目立ち、歩行者からの発見も遅れがちだった。



横断を開始してから左右を確認する人も見られた

Q3の解答：

- 高齢者は、横断前には必ず一旦止まって左右の安全を確認する
- ドライバーは歩行者がクルマの存在に気づかず飛び出してくる可能性があるため、必ず手前で一時停止を行い、歩行者を優先させる必要がある



横断中の歩行者の列をすり抜けようとする自転車利用者

ここがポイント

- 歩行者は、横断前には必ず左右の安全を確認する
- 携帯電話を使用しながらの横断や、友人などとの会話に夢中になったままの横断はしない
- ドライバー・ライダーは、横断歩道では必ず歩行者保護を行う必要がある。人通りが少ない場所でも、早めに減速をして、歩行者がいるかどうかを確認することが大切
- 自転車利用者は、車両であることを認識し、横断歩道を渡る歩行者がいる場合は、直前で停止するなど必ず歩行者保護を行う

ワンポイント DATA

横断中も周囲の状況に注意！

今回の観察では、高齢者は他の年齢層に比べると左右確認を行っていた。しかし、歩行中の死傷者数で最も多いのは高齢者である。

観察場所で歩行者の道路横断にかかる時間を計測したところ、一般成人が12～15秒だったのに対して、高齢者は15～22秒だった。杖をついている高齢者では、30秒かかった例もあった。横断前に左右確認して、安全であると判断しても、横断中に急接近したクルマに気づかず、事故にあうケースもある。また、クルマの接近をわかっていても、若い頃と同じように渡りきれないと思いきや事故にあうケースもある。横断する前の左右確認はもちろんだが、横断中も周囲(特に自分の左側から接近するクルマ)の状況に注意することが事故にあわないためのポイントといえる。夜間の場合は、白や黄色など目立つ色の服装を着てドライバーにアピールすることも大切だ。